

2022年12月期 第1四半期決算説明資料

当社の設立は2018年7月ですので、2018年6月までの実績は
モバイルクリエイイト株式会社の連結実績で集計しております

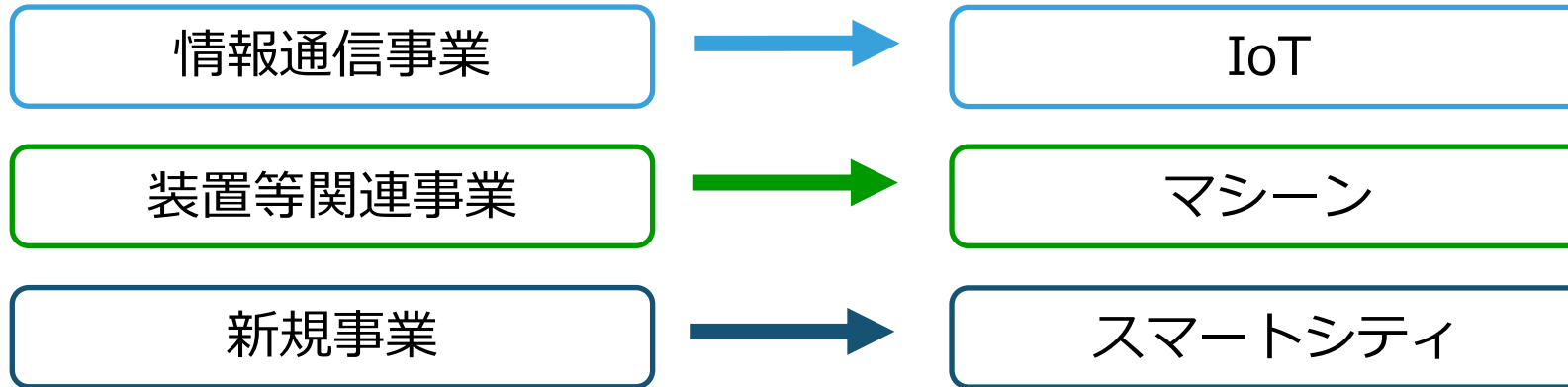


中期経営計画概要	p.2
2022年12月期1Q決算概要	p.6
事業のトピックス	p.14
参考資料	p.20

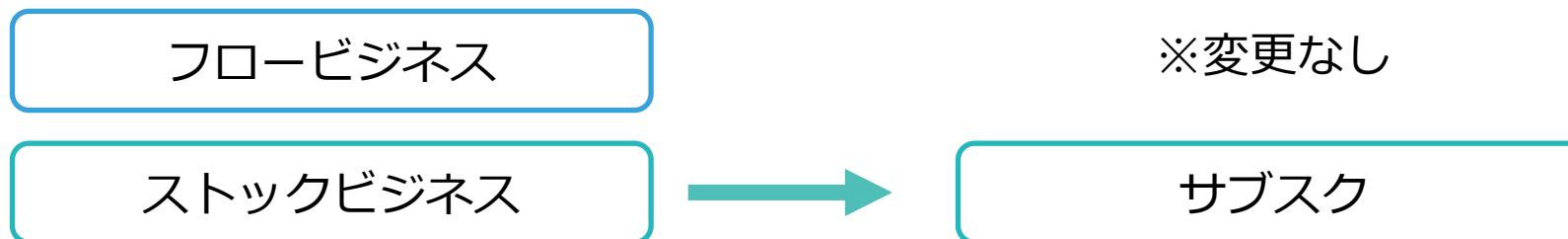
中期経営計画概要

FY2022 – FY2024

セグメント名の変更



ビジネスモデル名の変更



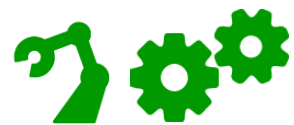
IoT事業を支えるマシン事業とスマートシティ事業

IP無線 タクシー バス トラック ペイメント ホテル ロボット ドローン

IoT (基盤拡大+成長投資)



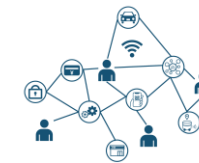
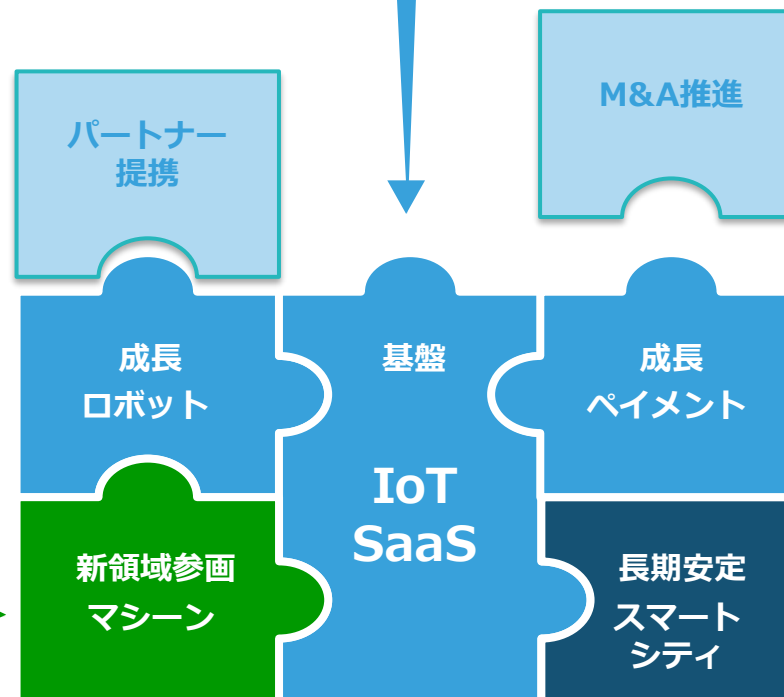
積極的投資とM&A推進による成長
基盤のIoT×SaaS事業拡大
ペイメント事業とロボット事業を新たな中核事業に発展 (3年後に単独セグメント化を目指す)



半導体製造・自動車関連装置
ロボット製造

マシン (改革・新領域参画)

IoTに必要なモノづくりの技術領域として
規模拡大ではなく質の向上 (収益改善)
ロボット事業に本格的参画 (改革)



スマートシティ (長期安定)

賃貸マンション30年一括借上契約
の長期安定収益
スマートシティの実証フィールド
としてIoTを支える



2022年12月期1Q決算概要

四半期（単期）の営業利益は過去最高

- ✓ IoT事業の年度末案件（公共機関の3月）などの季節要因もあり、売上高が好調（1Q過去最高売上）
- ✓ ペイメントが好調で全体業績を牽引、自治体防災用としてIP無線も好調（サブスク導入）
- ✓ マシン事業は、調達部品の長納期化により一時的に生産効率低下したものの、本年後半より回復見込
- ✓ 通期計画の営業利益進捗率は52.9%（通期業績への影響は精査中）

売上高（全体）	3, 544 百万円	前期比 + 18.4%
うちサブスク売上高	1, 063 百万円	前期比 + 9.0%
営業利益	397 百万円	前期比 + 98.0%

業績サマリー

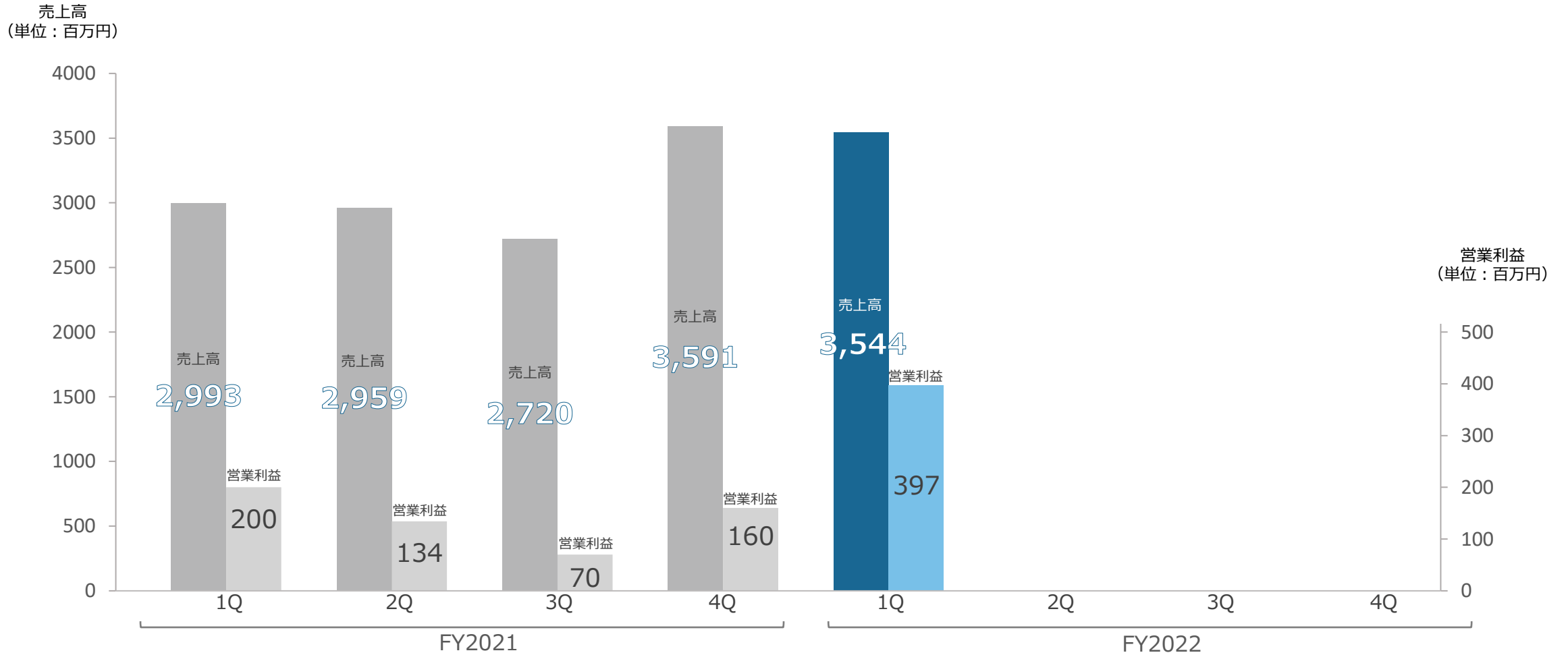
単位：百万円

	FY2021 1Q	FY2022 1Q	増減額	増減率	FY2022 通期計画	進捗率
売上高	2,993	3,544	551	+18.4%	13,000	27.3%
売上総利益	858	1,095	236	+27.5%	—	—
営業利益	200	397	196	+98.0%	750	52.9%
経常利益	210	386	176	+83.9%	712	54.3%
最終利益	132	237	105	+79.9%	474	50.1%
EBITDA	317	502	184	+58.2%	—	—

※最終利益＝親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

四半期業績推移（売上高・営業利益）

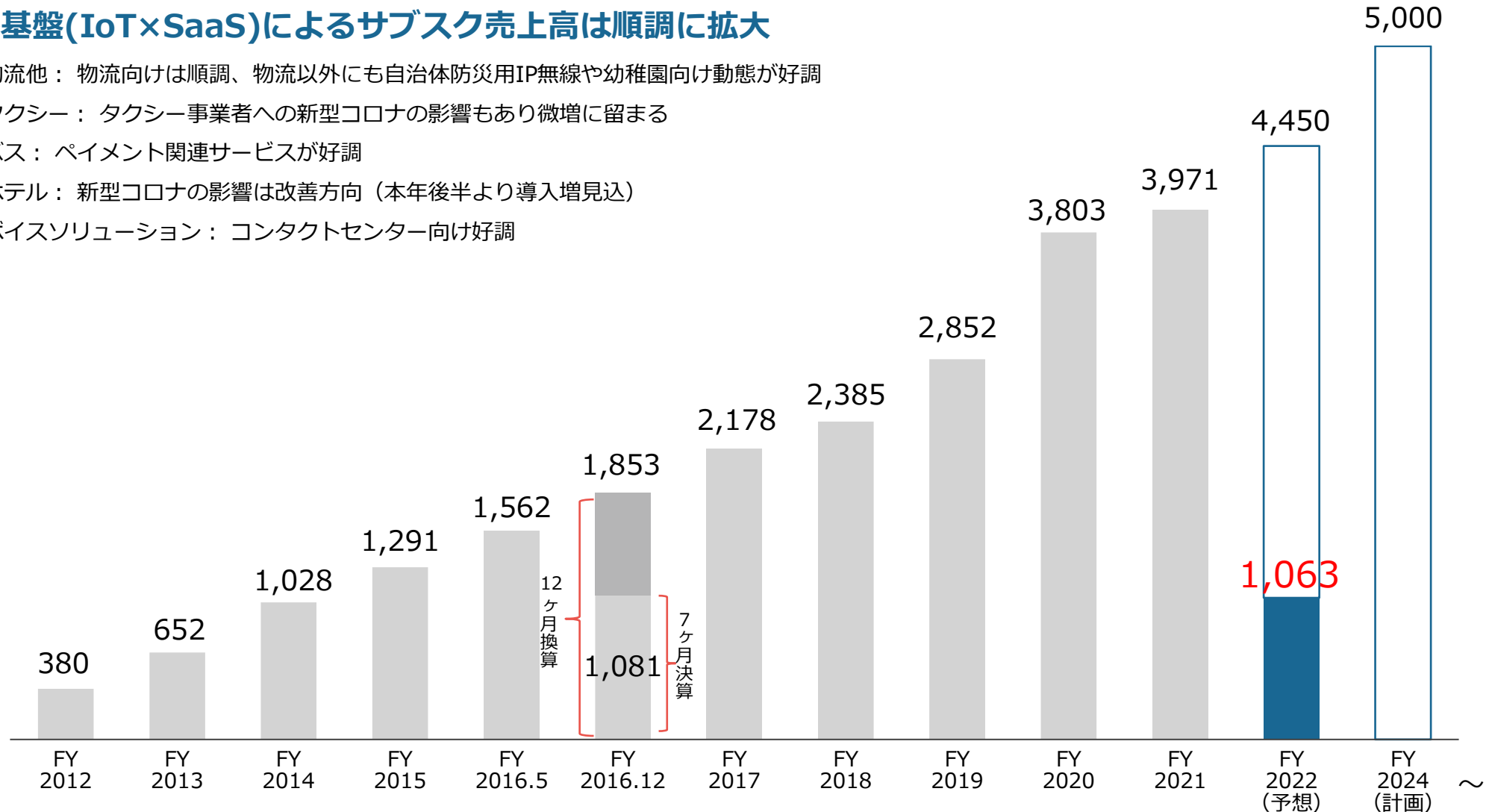


サブスク売上高の推移

(単位：百万円)

収益基盤(IoT×SaaS)によるサブスク売上高は順調に拡大

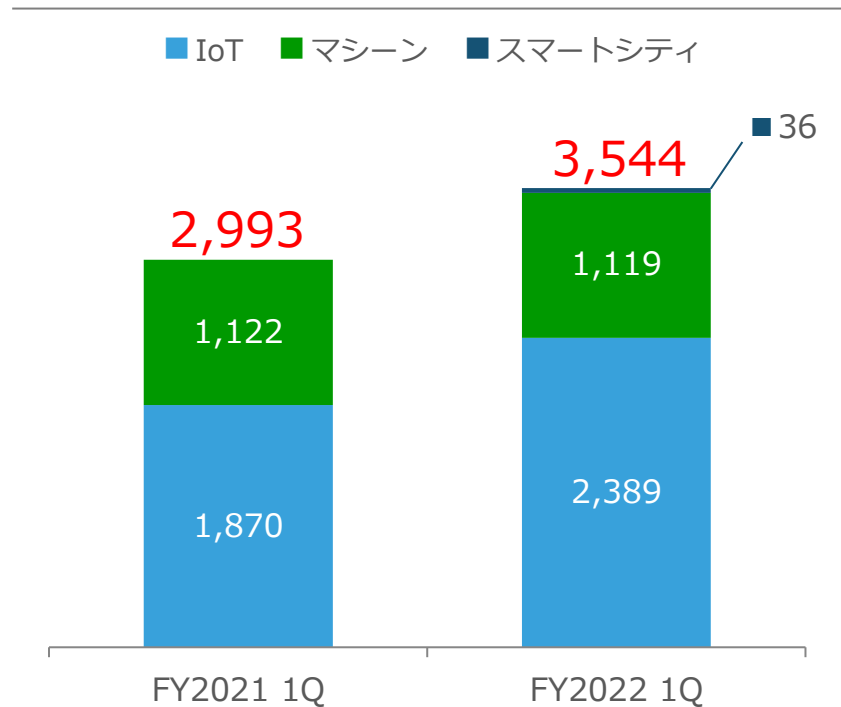
- ✓ 物流他：物流向けは順調、物流以外にも自治体防災用IP無線や幼稚園向け動態が好調
- ✓ タクシー：タクシー事業者への新型コロナの影響もあり微増に留まる
- ✓ バス：支払い関連サービスが好調
- ✓ ホテル：新型コロナの影響は改善方向（本年後半より導入増見込）
- ✓ ボイスソリューション：コンタクトセンター向け好調



セグメント別業績

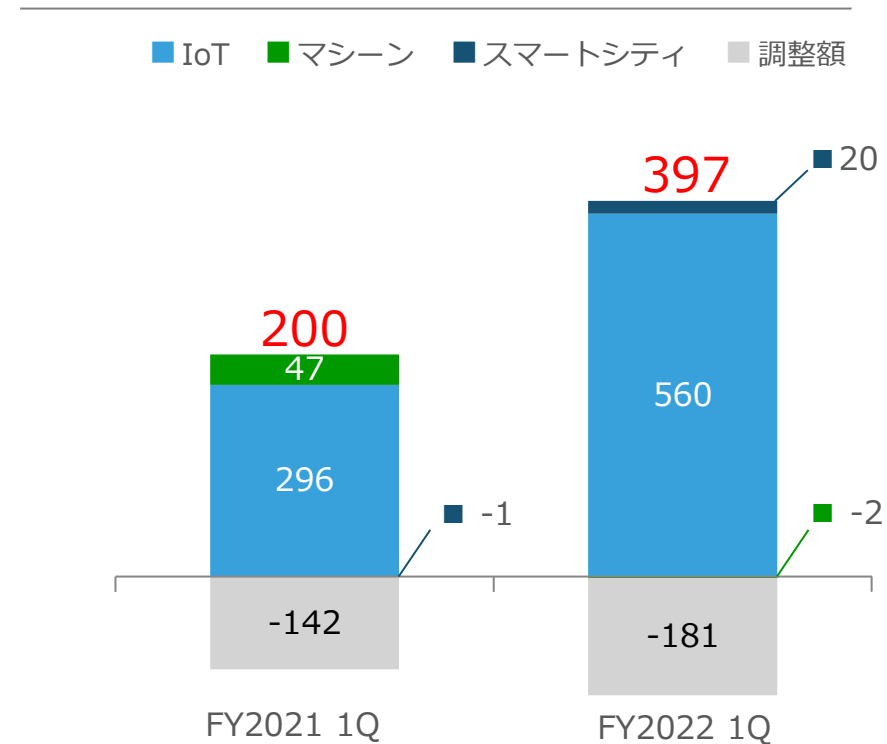
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



セグメント別業績（四半期推移）

単位：百万円

売上高	2021年12月期					2022年12月期					前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率
連結	2,993	2,959	2,720	3,591	12,264	3,544				3,544	+551	+18.4%
IoT	1,870	1,717	1,692	2,171	7,452	2,389				2,389	+518	+27.7%
マシン	1,122	1,242	1,027	1,419	4,812	1,119				1,119	△2	△0.3%
スマートシティ	-	-	-	-	-	36				36	+36	-

営業利益	2021年12月期					2022年12月期					前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率
連結	200	134	70	160	566	397				397	+196	+98.0%
IoT	296	198	197	269	961	※1 560				560	+264	+89.2%
マシン	47	89	40	112	290	※2 △2				△2	△50	-
スマートシティ	△1	△1	△1	△1	△5	20				20	21	-
調整額	△142	△152	△166	△219	△680	△181				△181	△39	-

※1 IoTは過去最高の四半期営業利益

※2 マシンは調達部品の長納期化により一時的に生産効率低下、リピート品や中小型案件などの受注により本年後半より業績回復見込

貸借対照表

単位：百万円

	2021年12月期末		2022年12月期1Q			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	補足
流動資産	9,846	51.9%	12,804	63.4%	+2,958	リース投資資産 +2,605
うち現預金	2,414	12.7%	2,198	10.9%	△216	
固定資産	9,125	48.1%	7,391	36.6%	△1,734	建物及び構築物 +866 建設仮勘定 △2,942
資産合計	18,971	100%	20,195	100%	+1,223	
流動負債	7,068	37.3%	4,624	22.9%	△2,443	短期借入金 △2,506
固定負債	3,024	15.9%	6,600	32.7%	+3,575	長期借入金 +3,593
負債合計	10,093	53.2%	11,225	55.6%	+1,132	
純資産合計	8,878	46.8%	8,970	44.4%	+91	
負債・純資産合計	18,971	100%	20,195	100%	+1,223	

※ スマートシティ事業完成（2022年2月より賃貸開始）に伴う、資産科目振替・証書借入及び短期つなぎ資金の返済等

事業のトピックス

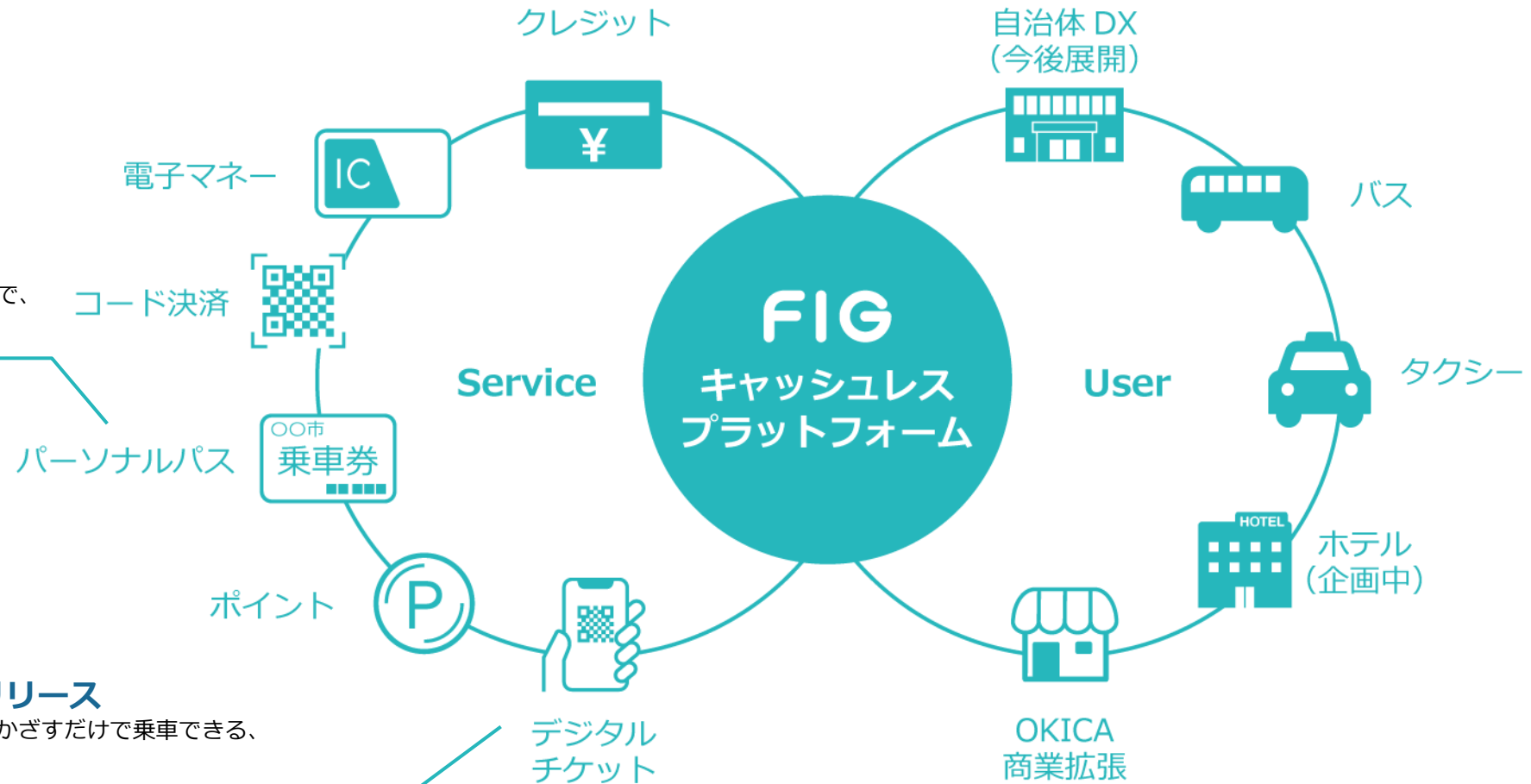
キャッシュレスプラットフォームを構築中（順次サービスを拡大）

横浜市敬老パス開発中

FPM・MC共同企業体にて約 20 億円（概算）で受託
横浜市民約 40 万人に交付
現行の紙運用から IC カードへの切り替えを行うことで、
バス車両約 3 千台などの利用実態のデータ化

モバイルチケット「バスチケ大分」リリース

スマホに表示されるQRコードをバスの読み取り機にかざすだけで乗車できる、
キャッシュレス決済を開始



モバイルチケット「バスチケ大分」

空港リムジンバスのチケットをスマホで決済し、スマホに表示されるQRコードをバスの読み取り機にかざすだけで乗車できる、キャッシュレス決済を開始。



QRコードを読み取り、LINEで友達登録！



「バスどこ大分」リアルタイム混雑状況

バスの乗車口と降車口に乗降者数を計測できる「乗降センサー」を設置し、バスロケーションシステム「バスどこ大分」のシステムを通じ、バス車内のリアルタイム混雑情報を表示する取り組みを開始。

コロナウイルス感染症拡大防止へ貢献！

バスの混雑状況を以下の5段階のアイコンで表示します



空席多い



空席少なめ



やや混雑



混雑



かなり混雑

ロボット事業（搬送用ロボットで匠と資本業務提携）



両社で目指す市場規模（物流・工場向け）

2024年
目標規模 **50** 億円以上

現在、国内大手製造メーカーへの導入フェーズ入り

資本業務提携の内容

業務提携

機構及び電気設計の技術協力・ソフトウェア分野の技術提携
製造委託（匠からFIGへ）

資本提携

匠に3億円の出資と役員派遣

ロボット事業（その他取り組み）

自社オリジナル 搬送ロボット



グループ各社の技術を活かした 「WILL」

サービスロボットとして様々な活用
大分県の新型コロナウイルス感染症患者の宿泊療養施設内で
ロボットの自動走行によるお弁当配送やごみ収集を実施

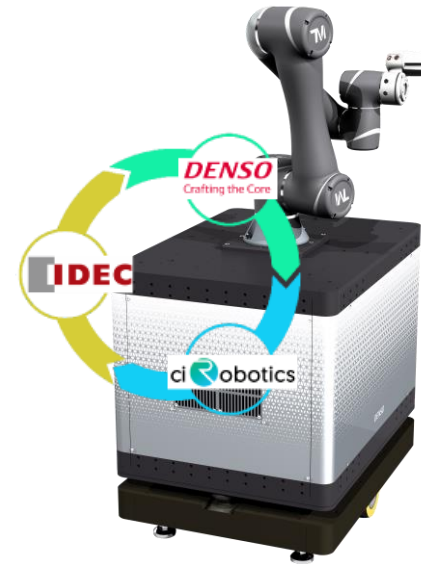
オムロン社 共同開発



モバイルマニピュレーター 「ciMoMa-SLIM」

大手医療機器メーカー・半導体メーカーへ導入
クリーンルーム内での空気清浄度の検査を人からロボットへ
生産工程内での製品搬送作業を人からロボットへ

デンソー社・IDEC社 コラボレーション



自動式走行ユニット 「DX-CELL+走行ユニット」

DENSO社のDX-CELL、IDEC社のSWD、
ciRoboticsのナビが融合
自動化ラインを素早く構築し立上を力強くサポート

Pudu Robotics社 国内代理店



高性能ネコ型配膳ロボット 「BellaBot」

LIDAR、RGBDカメラを搭載
周辺環境を的確に捉えることにより人の動きや障害物の
検知などを瞬時に行ない、それらを回避して走行

ドローンによる救援物資配送の実証実験

- ドローンによる情報収集
空からの俯瞰的な映像によって、災害による被害の全体像を把握
- ドローンによる物資輸送
道路が通行止めになった場合でも、空から迅速に必要な物資を運搬



參考資料

会社概要



Future Innovation Group

FIG (東証プライム・福証本則)

純粋持株会社

商号

FIG株式会社 (Future Innovation Group, Inc.)

設立

2018年7月2日 ※グループ前身のモバイルクリエイイト設立は2002年

代表者

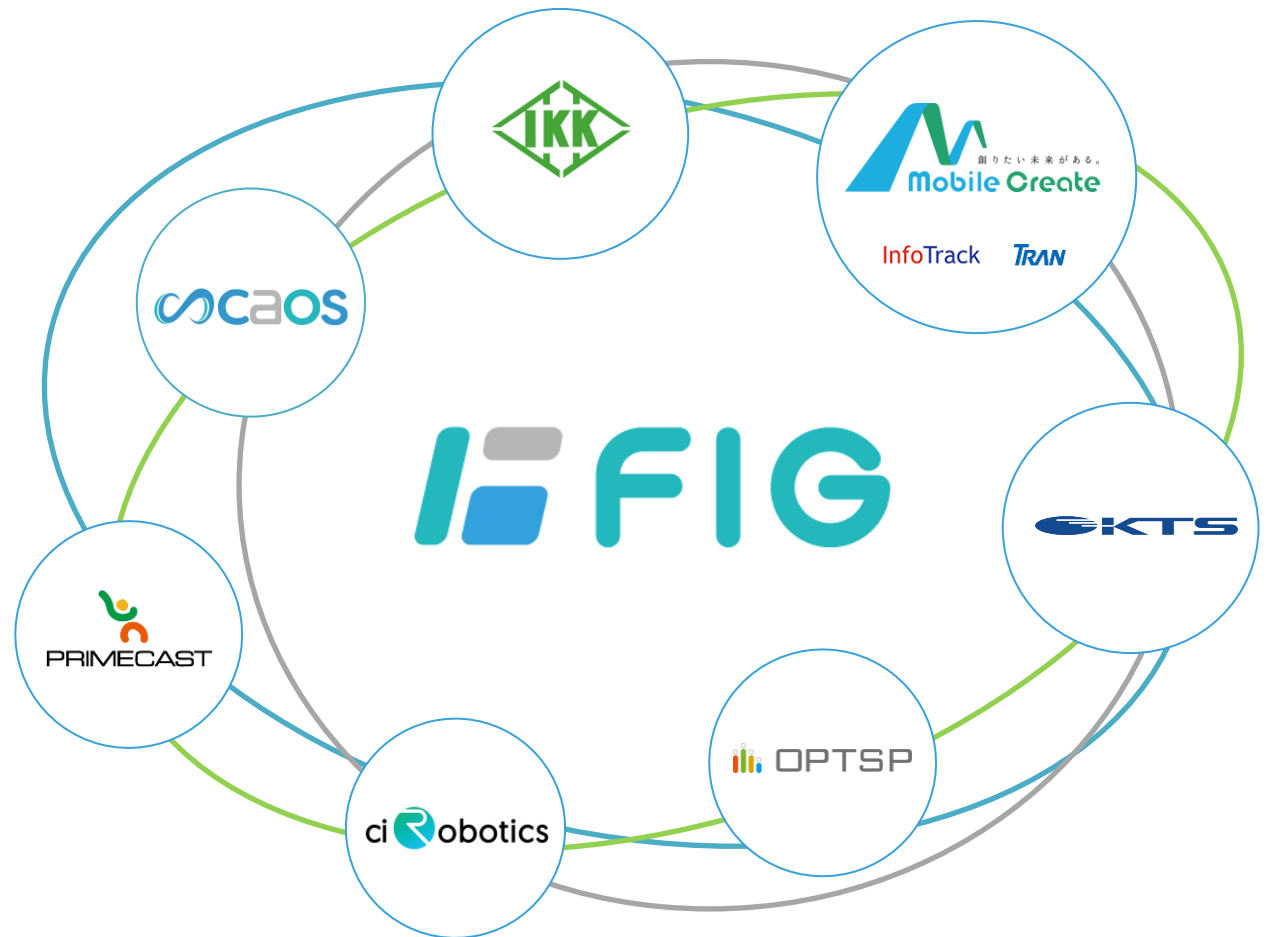
代表取締役社長 村井 雄司

所在地

大分県大分市東大道二丁目5番60号

従業員数

697名 (2021年12月末現在連結)



FIGグループの主な事業紹介

IP無線システム



携帯インフラを活用したIP無線システムのパイオニア。主力の車載タイプに加えて、防災市場ではハンディータイプが好調でLINE連携も展開。

タクシー配車システム

タクシー配車システム、車載端末はタブレット化でメーターと連動。配車室受託が好調で、ユーザー向けLINE配車もサービス開始。



電子決済システム

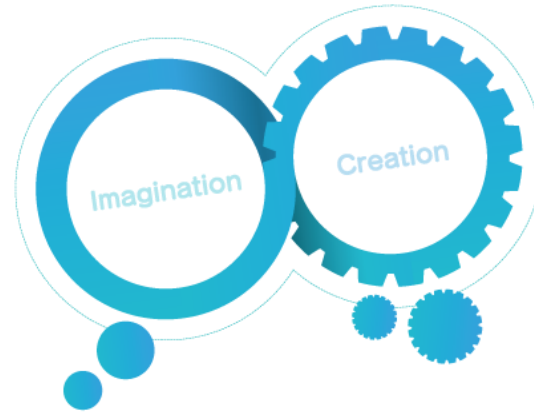
得意とする公共交通を中心にペイメントサービスを展開し、高いセキュリティ基準であるPCIDSSも取得。沖縄本島IC乗車券システムのOKICAは、商業拡張をスタート。



バスロケーションシステム



バスの経路や乗り継ぎ検索、接近情報などをバス利用者へ提供。バスロケーションシステムでは、国内トップレベルのシェア。デジタルサイネージや混雑情報システムなども展開。



半導体・自動車関連自動化装置

自動車部品を製造する装置を開発から設計・製造・組立・販売・サービスまでトータルで手掛け、メーカーとして高い評価を得ています。



ホテルスマート化



ビジネスホテルやシティホテル向け客室のマルチメディアシステム、リネンシステム（客室清掃管理）や施設混雑案内システムなどIoTを活用しています。

産業用ロボット



マップデータを元に走行を行い、マニピュレーターが人の代わりに作業を行います。ロボットシステムインテグレーターだけでなく、自社オリジナル搬送ロボットも開発中。

ドローン








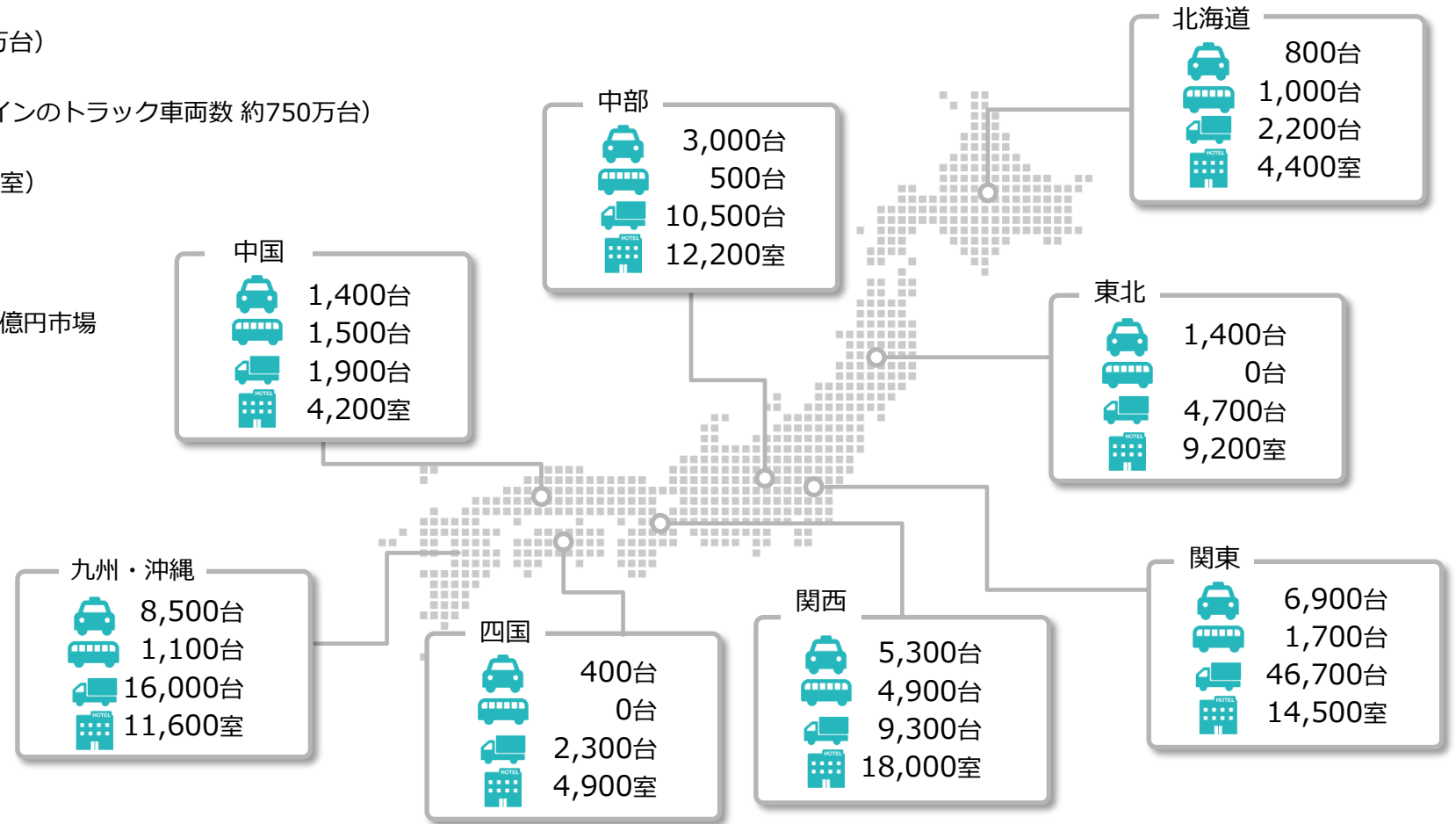
産業用ドローンの開発・販売を行っています。ドローン活用における省人化の実証実験にも参画しています（ドローン宅配・スマート農業・血液検体の輸送など）。

IoT×SaaS事業（サブスクの顧客基盤）

顧客基盤（月額サービス契約数は21万件+a）

2021年12月時点

-  タクシー 約27,700台
(シェア13%、タクシー車両数 約22万台)
-  バス 約10,700台
(シェア21%、路線バス車両数 約5万台)
-  物流他 約93,600台
(IP無線車載タイプシェアNo.1、メインのトラック車両数 約750万台)
-  ホテル 約79,000室
(シェア7%、ホテル客室数 約110万室)
-  ボイスソリューション法人契約数274件
※コンタクトセンターソリューションは約5千億円市場



ESG・SDGsの視点を取り入れた事業戦略でサステナブル経営を目指す



Environment

ITで地球環境負荷低減へ貢献

- 自社の製品・サービスによる環境負荷低減
- 事業活動で排出される廃棄物削減、資源化率の向上、自然エネルギーの利用
- 有害物質使用削減への取り組み
- 地域環境の保全



Social

グループの技術で快適な未来を創造

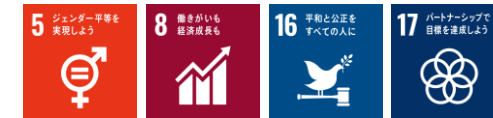
- Society5.0の社会を支える技術・サービスの提供（ドローン・ロボット）
- 持続可能な地域交通に貢献する（バス・タクシー）
- キャッシュレス化社会の実現に貢献する
- MaaSの普及に貢献する
- 防災・減災・安全に貢献する
- スマートホテルを実現する技術の追求
- はたらきやすさ（健康増進・ダイバーシティ推進）を提供する



Governance

経営基盤を強固にするためのガバナンスの強化

- コーポレート・ガバナンスの徹底
- 社外役員の登用
- 役員報酬額の決定方法
- コンプライアンスの順守・研修の実施
- 反社会的勢力排除への対応
- 情報セキュリティの強化





Future Innovation Group

- 【 連絡先 】 F I G株式会社 経営企画本部
- 【 住所 】 大分県大分市東大道二丁目5番60号
- 【 T E L 】 097 - 576 - 8730

本発表において提供される資料及び情報は、いわゆる「見通し情報(forward-looking statements)」を含みます。これらは現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。